

みんゆう 随想

太郎平小屋の灯りが見えなくなり、少し下りて石ゴロを登り切ったころ、ぼんやりと周辺の植物や雪渓が判別できようになりました。北アルプスの新鮮な夜明けを味わい、神岡新道分岐を通過し、北ノ俣岳で雨具を脱ぎ小休止。アツパダウンの長い一日に備え、竹の皮で包んだ五目朝弁を半分、手作りの漬物、バナナで朝食を取り、空模様と体力を心配しながら足早に山頂を目指しました。



渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング代表取締役

2時間で、簡単に寄せ付け出発を開始していました。ない黒部五郎岳を征服しまでも大方は小屋に釘付け。した。晴れ男も、この日だ天気情報の掲示板を見て、けはなにも見えませんでし天候はますます悪化していだが、壮大なスケールに魅ることを悟り、重苦しい空了されながら、直下の分岐気が充満していました。で朝弁の残りも非常食で早午後は雷雨の予報なのでめの昼食を取りました。昼までに戻るピストン計画時間に余裕ができたので、雨対策を一念にして5

と、山荘にザックを置き出発。シクザクのガレ場を登ると、足下から吹き上げる暴風雨が高度に比例し強くなり、危険度が増してしました。滑落防止のため13^時程度石を抱え登ることにしました。

山に魅せられて(II)

のんびり歩いていると、小時に小屋を出発。途中の薬屋近くで親子9羽のライチ師峠のキャンプ場では、暴合掌して入念に3・11の追ヨウが警戒心もなく散歩風雨でテントを捨て小屋に中。しばらく疲れを癒やし避難するパーティーが続出でもらってから、午後3時、する混乱の中、増水の沢沿い小屋へ無事戻りました。いの登山道を登りケルンで小休止。約2時間で薬師岳目覚め外に出ると、数組山荘に到着しました。軒先を借り昨日と同じメの健脚は雨の中を右(黒部五郎岳)へ、左(薬師岳)へとニューの朝弁を食べたあ

意で進むと、やがて岩場に変わり、気が付いたら目前にうっすらと、比較的大きなお社が目に入りました。

大荒れの天候は回復が見込めず、下山者や避難者でごった返す小屋で思案の末、濁流の登山道を安全確認しながら無事登山口まで辿り着きました。